

NPO法人地球こどもクラブ主催

# ぼくたちの地球を守ろう

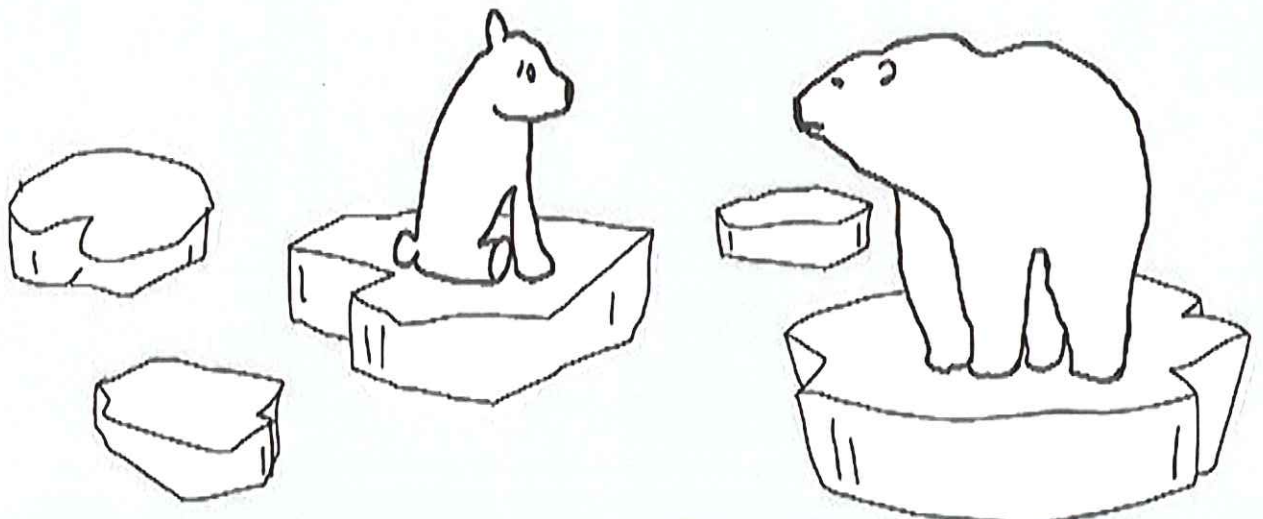
第25回 小学生・中学生  
作文コンクール

第19回 小学生・中学生  
ポスターコンクール

テーマ

## 「地球 温暖化」

Global Warming



## 2015年入賞作品集

NPO法人地球こどもクラブ

## 内閣総理大臣賞

タイトル：【エコへのいしき】

愛知県 小学校4年生 早川 葉歌

私は、社会でならった「節水」、「節電」という言葉を聞き、やってみたいと思いました。もともと私の家では、ダンボールやペットボトル、古着やいらぬ紙などさまざまな物をリサイクルするしせつ「エコハウス」にこまめに行くようにしています。

しかし、私は日常生活の中で「つい」や「うっかり」が多かったと思います。例えば、「つい、豆電球をつけっぱなしにしてしまう。」「うっかり、はみがきをしながら、水を出しっぱなしにしてしまう。」「つい、シャワーの水を出しっぱなしにしてしまう。」などです。

リサイクルやゴミの分別は、家でも外出先でもいしきしている事はとても多いのに「つい」、「うっかり」して水や電気のむだづかいをしてしまい、節水や節電へのいしきをする事は、忘れがちです。水道や電気をけすのは、数秒でできるのに、なぜでしょうか。

私の考える理由は、以下の通りです。

ゴミは、地いきごとにルールが定められているため、分別をきょうせいされ、そのルールを守っているうちにだんだん分別するのがクセになっていきます。それに対して、節水や節電は、自己かんりなので、きょうせいされることがなく「つい」や「うっかり」をそのままにしてしまいがちだからだと思います。

さらに、「つい」、「うっかり」して、節水や節電を自分が出来ていないという事にすら気付いていない事の方が多いのも理由の1つだと考えられます。

水や電気のむだづかいをしてしまい、節水や節電があまり出来ていないことにもいしきをするには、どうしたらよいでしょう。それは、家族でルールを決めて、一人一人が出来ていない所をしてきし合い、節水や節電が出来ていないということを知るのが第一歩ではないでしょうか。自分たちが出来ていないということを知れば、次に気をつけることが出来ると思います。それを続けることにより節水や節電がクセになり、ゴミの分別と同じように自然とむいしきに出来るようになると思います。

ゴミの分別は、結果が目に見えます。でも節水や節電は、取り組んでもせいかが目に見えにくいのです。だからこそ、一人一人がいしきを持つのは大切なのではないのでしょうか。

米のとぎじるで植物に水をあげたり、キャンドルを使ったりする事も大切ですが、みんなエコへのいしきを高め「つい」や「うっかり」をなくす事が、地球を守る小さな第一歩だと思います。



## 外務大臣賞：小学生部門

タイトル：【めぐる自然を感じて】

兵庫県 小学校5年生 天羽 悠月

「ぐっ、ぐっ、ぐっ、ぐっ。」

「こらっー。何こぼしているんだー。」

私の手からこぼれ落ちたお米は、川の水にすくわれて、あっという間に流れていった。

ここは、芦生。原生林の残る山々からの水は、日本海へと続く。私はこの場所で、野外活動をしている。

活動内容は、季節によって様々だ。

一年の始まりは、山の神様へのあいさつから始まる。そして、まき割。お米を食べるにも、体を暖めたりするにも必要だ。「スパーン。」と割れる音は、気持ちがいい。

それから、お米を川で洗い、炊く。パチパチと燃える杉の葉の上にまきを入れ、飯ごうを並べる。熱くてけむたいけれど、お米の炊けたいいにおいをかぐと、とてもうれしくなる。炊きたてのお米の甘さが口にひろがった時は、顔がにんまりしてしまう。

そして、命の恵もいただく。

一つ目は鳥さばきだ。鳥はヒモでくくられる時、「キャー。助けて…。」と言っているような声でさけぶ。かわいそうだが、普段私達の食べている鳥肉も同じだ。血抜きと毛むしり、解体、調理をして、テーブルに並ぶ。いただく時は感謝をして、おいしく食べることが大切だ。

二つ目は、山菜や野菜の収穫。山と川に囲まれたこの場所には、たくさんの山菜がある。山菜は一見雑草に見えるが、実はおいしい食材になる。食べると少し苦いけれど、春の訪れを感じられる。野菜は毎年畑に、じゃがいも、きゅうり、さといもなどを植える。自分達で育てた野菜は、本当においしいと思う。

ここで活動しているうちに、いつも自分のしている生活が便利だと気づかされる。水はいくらでも使え、道はほそうされて、たくさんの電気を使うことができる。

しかし、私の家の近くの川は、きれいに見えるが、川底は汚れていて、空きカンなどのゴミが捨ててある。夜空に見えるのは、月と少しばかりの星。ゴミステーションには、たくさんの袋の山。まだ使えそうな物もあってもったいない。

今、世界中で砂漠化や海面の上昇、オゾン層の破壊が進んでいる。私はテレビで見ると、そのことを知らなかった。大好きな自然が壊されていっていることが、とても悲しい。

『世界はつながっている。』

静かな山に、こだまする鳥の声は、芦生の恵があるから聞こえる。豊かな自然の裏には、がんばって支えている人達がいる。自分も出来ることから守っていこう。

「ザワザワ、ザワザワ。」

木々が笑うように、風でゆれた。川はいつものように流れている。「この川のように、いろんな人へ心をつなげていきたい。」そう思いながら、またお米をとぎ始めた。太陽がやさしくかがやきながら、山かげへと沈んでいった。

## 外務大臣賞：中学生部門

タイトル：【地球を守るために】

静岡県 中学校2年生 <sup>オオスギ</sup>大杉 <sup>アスカ</sup>明日香

青い空と青い海、初めての海外旅行に胸躍らせていた私だったが、ハワイ島の環境問題を知り、地球は一つであり、人間が国境を越えて取り組むべき課題が見えてきた。昨年の夏、私は子ども環境大使の一員としてハワイ研修に参加した。常夏の島、フラダンス、陽気な島を連想していたが、人間の手で豊かな自然が破壊されつつある現状を知った。海外からの観光客が持ち込んだ外来種が在来種の生存を脅かし、ボランティアが現状を改善するために計略を巡らせていた。その根底には、ハワイの人々の共通の思いがある。

それは「マラマ・アイナ。」「マラマ」とはハワイの言葉で現在の状態を保つ、「アイナ」とは大地という意味。つまり、ハワイでは自分達が住んでいる大地を、今の状態のまま後世へと引き継いでいくという伝統が、人々に根付いている。ホームステイ先でも、節水のためにシャワーの時間を短くしたり、使わない電気をこまめに消したり、扇風機やエアコンを使わずに窓を開けるという習慣が当たり前になっていた。マイバックも日本と同様に実施されていて、ハワイではビニール袋全面禁止という法律まである。

この体験から、「マラマ・アイナ」が世界共通語になり、人々の心に定着すれば、環境破壊を止めることができると思った。それでは、今の私たちにできる具体的なことは何か。むやみな森林伐採を阻止するために、マイバック、マイ箸を自分だけでなく、周囲にも呼びかける。植樹や校庭芝生化などの取り組みに賛同し、協力する。世界のCO<sub>2</sub>排出量の役二割を自動車占めていることから、目的地が近距離であれば徒歩か自転車を使用。風呂の残り湯は洗濯や花の水やりに再利用。冬は室内でも一枚余分に着て、暖房を不使用。夏は窓を開けて団扇や扇子を活用し、冷房を不使用。ゴミ箱内のビニール袋を新聞袋に代用。

なぜCO<sub>2</sub>を削減する必要があるのか。私たちは四季のある日本に住み、旬の恵をいただいで生きている。それが、CO<sub>2</sub>増加による異常気象や気温上昇の影響で、本来のおいしさを保てなかったり、不作という問題を引き起こしている。また、乳製品を生み出す牛たちは冷涼な気候を好むが、気温が高い日が続くと、病気になったり乳の出方が悪くなる。

私が住む浜松市西区は農業が盛んだ。ところが、農業従事者の高齢化が進み、荒地も目立つ。そこで、広い農地を幼小中高の学生に開放し、農作物の収穫体験を推進すれば、大地と食物の有難みを実感できる。また、緑地化が進み、景観もよくなり、肥沃な土壌が守られていく。私は幼い頃から土いじりが好きだ。手塩に掛けた野菜の味は格別においしい。

「マラマ・アイナ」季節の移ろい、動植物が元気な地球を守るために、個人の取り組みは小さいようで大きい。わが大地を見渡して、意識的にできることから始めていきたい。



## 文部科学大臣賞：小学生部門

タイトル：【何事もまず一歩から】

鹿児島県 小学校6年生 財部 優香

私の家の近くから白色の大きな「風車」が見える場所があります。この風車が回っている理由が知りたくて、三年生の時に地球温暖化について調べたことがありました。

地球温暖化とは、温室効果ガスの中の物質、特に二酸化炭素の排出量が増えることで、気温が上昇し、いろいろな被害がおこるというものでした。例えば、水分が少なくなり干ばつがおこったり、気温が高くなると、北極や南極の氷が解けたり、海水が増え南の島が沈んだり、自然災害がおこったりすることがあります。

この出来事は、人間が家庭や仕事などで二酸化炭素を排出することで、人間や動物、植物などのいろいろな環境に影響を及ぼしているといえます。

地球温暖化防止、エネルギー自給率を高めるために、私の住む鹿児島市内では、「風力発電」や「太陽光発電」、そして「水力発電」や「地熱発電」などがあります。

白色の大きな風車は、風さえあれば24時間発電できる風力発電でした。

太陽光パネルに、太陽の光を集め電気を作る太陽光発電もあります。鹿児島市七ツ島ソーラー発電所では、東京ドーム約27個分の広さで、約29万枚のソーラーパネルが設置されています。年間の発電電力量は、約78800メガワットアワーだそうです。なぜ全てのパネルが同じ方向にかたむけられているのかたずねてみると、桜島の火山灰が積もらず落ちるようにと、太陽の光を集めやすくするために、20度にかたむけられるなどいろいろな工夫もされているようでした。

明治時代につくられた九州一古い水力発電が鹿児島市内にあることも分かりました。川に近いところにあり、水さえあれば発電する事ができます。

このいろいろな発電所の人達に教えていただいている時、その人達の笑顔で、何かを成しとげることができて、嬉しいというような顔に見えました。

私は、地球温暖化をこれ以上深刻な問題にさせないためには、日本中だけではなく世界中の人間一人一人が、心を輪にして何か行動にうつしていくことが必要だと思います。しかし、みんなでききなり活動するということは不可能といってもよい程、難しいことです。

自分達の生活の中で「電気」「水道」「ガス」「ゴミ」「ガソリン」「灯油」などを見直し、これからの生活に活かしていきたいものです。私は植物をたくさん植えて、光合成がよく行われる庭園を造りたいと思っています。

「何事もまず一歩から。」

いつか私が親になった時、私の子供の未来が輝けるような地球であって欲しいと願っています。

## 文部科学大臣賞：中学生部門

タイトル：【夢見る赤ちゃんガメ】

静岡県 中学校2年生 <sup>ヨシダ</sup> 吉田 <sup>マコ</sup> 真葉

「アカウミガメの赤ちゃんは、北太平洋をぐるりとまわって大人になるんだよ。」

私が小学三年生の時、初めてアカウミガメの赤ちゃんを間近で見たときのことである。この頃の私は手も足も小さく、顔に水をつけることも出来なかった。しかし、今アカウミガメの赤ちゃんはカエルと同じくらいの大きさで、私の子供の頃よりもはるかに小さい。はかりで量ってみると、重さはたったの20グラムだった。たしかに何か私の手のひらにちょこんと乗っているなというくらいの感覚だったが、実際に量ってみると100グラムもないという事実が分かってとても驚いた。

大人になると100キロを超えるアカウミガメもいるそうだ。触ってみると、プニプニしていてやわらかい。目はまだ十分に開いていなかった。

こんな小さな生き物が、何千キロもある広い広い海を一周するなんて、私には想像がつかなかった。人間で太平洋を横断するのに成功した人は、そうそういない。現在ニュースキャスターとして活躍している辛坊治郎さんも、去年太平洋横断にチャレンジしたが、マッコウクジラに衝突して失敗してしまった。やはり、自然と闘うのは簡単ではない。だけど、小さな体でそこに立ち向かうアカウミガメの赤ちゃんは勇敢だ。人間よりもはるかに体は小さいが、心は人間よりも強い。

お昼になったので、私は腰を休めた。辺りを見渡すと、ビニール袋や空きカンなど、ゴミがたくさん落ちていた。しばらくするとウミガメを守る会のおじさんがやってきて、「ウミガメはね、ビニール袋をクラゲと間違えて食べて死んでしまうこともあるんだよ。最近、砂浜がコンクリートでおおわれて、産卵できないこともあるんだ。」

と教えてくれた。地球は食物連鎖が行われることによって成り立っている。しかし、人間がゴミを海や川、山などに捨ててしまうとそれを食べた動物が死んで、食物連鎖が成り立たなくなる。また、人間が出したゴミをたとえ処分したとしても、燃やす時に大量の二酸化炭素が発生して地球が温まってしまう。つまり、人間がゴミをつくらなければ二酸化炭素の量は大幅に減るのだ。最近山をつぶしてまで住宅を建てている。私がこの間田舎に出掛けた時も、木が一本もない、土がむき出した山があった。木は二酸化炭素を酸素に変えてくれる。だから自然は何があっても守っていかなければいけないのだ。

アカウミガメの赤ちゃんは、つぶらな瞳でずっと私を見ていた。その目はまるで、早く海を冒険したいと言っているようだった。赤ちゃんガメは、海とはどんなところかまだ知らない。いつかきれいな海で冒険が出来る日が来てほしい。そう願いながら、そっと赤ちゃんガメを、海に放した。



## 環境大臣賞：小学生部門

タイトル：【温だん化をへらす】

愛知県 小学校4年生 榊原 茅乃

私の家では夏になると、ゴーヤやアサガオを育てています。なぜなら、まどの前に緑のカーテンをつくと、あまり日があたらなくなって部屋の中がすずしくなり、エアコンを使わずにせん風機だけで夏をすごすことができ、あまり電気を使わずにすむからです。その他にも電気を使わずに生活する方法がたくさんあります。わたしの家で日ごろの生活の中でやっていることをしょうかいします。一つ目はテレビを見る時間を少なくして見ないときは、主電源を切ることです。二つ目は、家族で、できるかぎり同部屋にすることです。なぜなら、照明がついている部屋をへらすことが出来るからです。三つ目は、家族みんなでお風呂に入ることです。みんなで、一度に入ると追いだきをしないですむので、ガスの使う量をへらすことが出来るからです。

また、お風呂の、のこり湯をせんとくにも使っています。私は、もっと電気やガスをへらす方法がないか考え、お母さんとお父さんに聞いてみました。そしたら、「まだまだたくさんあるよ。」と言っていました。お母さんは、「夏はまどを開けて風を通す。」、冬はカーテンを開けて太陽の光を入れるとあたたかくなる。」と言っていました。お父さんは、「植物は二さんかたんそをすって、さんそを出すので、すごく二さんかたんそをへらすことが出来るんだよ。」と言っていました。「今年の夏は緑のカーテンをつくらないの？」とお母さんが言ったので、私とお父さんでゴールデンウィークにゴーヤの種をまきました。夏までに屋根まで届くように、私が毎日水やりをしようと思います。私は、じゅ業や、お母さんやお父さんの話を聞いて地球がどんどんあたたかくなると、人間が住む事が出来なくなるということがすごくよくわかり、すごく大変なことがわかりました。これから、地球がどんどんあたたかくなならないようにするためには、電気せい品などを、あまり使わないようにして、電気やガスの使う量をへらしていくことが大切だと思います。また、木や花や、ヤサイをたくさん植えることによって、二さんかたんそをへらすことが出来ると思います。

今後、私はもっとむだな電気を使わないようにして、自然を大切にしていきたいと思います。最後に私が「二さん化たんそを出さないようにするんだったら、みんなが息をしなけばいいじゃん。」といったら、お父さんが「みんな息をしなかったらしんじょうよ。」と言われました。

## 環境大臣賞：中学生部門

タイトル：【小さなことの積み重ね】

三重県 中学校3年生 杉山 葉々実

私はこの作文を書くにあたって、数年前に行ったある取り組みを思い出しました。

それは小学生の時、学年全体で取り組んだ節電の取り組みです。その取り組みは、毎日各自なるべく家で電気を使わないで過ごします。そして、夜に1日の電気消費量を家の電気メーターで確認し、記録するというものでした。

節電のしかたはたくさんあります。夏の場合では、アサガオのカーテンの利用です。これは、私の家では毎年やっています。私の家のリビングは、夕方になると西日が強くさすので、それをカットすることで、とても涼しくなるのです。そして夏休み後半になると、アサガオの種をたくさんとります。そうすると、翌年もまた同じようにアサガオのカーテンを作ることができます。

冬の場合では、ヒーターをつける代わりにひざ掛け等を利用します。私はいつも自分の椅子の所にひざ掛けを置いておき、いつでも使えるようにしてあります。また、暖房を使うときにはカーテンを閉めています。そうすると窓の近くでもあまりスースーとした寒さを感じなくなります。

他には、テレビの主電源を切ることです。私は節電について考え始めたころ、待機電力という言葉を知りました。それまでは、テレビのリモコンでピッと消すだけで、完全に電気は使われていないと思っていました。

こうした節電方法で取り組みを行いました。

私はこの取り組みの長所は、自分の取り組みの成果がちゃんと数値という形で表れることです。どんどん電気消費量が減少していくことで、達成感を感じることができるのです。また、毎日の小さなことの積み重ねが大きな節電の力になり、とてもうれしくなります。

しかし、私には反省点があります。正直に言うと、今は毎日電気メーターで電気消費量を記録したりしていません。そして、今回紹介した節電方法は今でも習慣としてほとんどしているのですが、テレビの主電源を切ったりというのは、あまり実行できていない気がします。その理由は今の自分には環境に対する意識があまりないからだと考えました。

しかしこの作文を書くことによって自分の生活を見直し、自分が出来ていることと出来ていないことに整理することができました。環境に対する意識も高まりました。

だから私はもう一度この取り組みをちゃんとやりたいと思います。そして今度は前回よりもさらに長続きさせ、毎日の節電を積み重ね大きな力になるようにしようと思いました。この取り組みは、小さな子でも誰でも出来る簡単な取り組みです。皆さんもこの取り組みをしてみませんか。そうすることによって、小さなことの積み重ねでさらに大きな力が生まれることを願っています。